

11503鉄道車両・同部分品製造業における死傷災害100事例（-2017年）

No	年	月	発生 時	死傷災害事例	年 齢	事 故 の 型	起因物 (小)	労働 者規 模
1	2017	12	16~17	工場内にて、ボール盤での穴あけ加工の段取り中、部品とタップの間に左手が挟まれた。	35	7	152	1~9
2	2017	12	11~12	事業所工場内において機械清掃中、上部に登るため機械に足をかけたところ、不安定だったためにバランスを崩し、上部にあったパイプにつかまった際、右肩を負傷した。	52	19	921	30~ 49
3	2017	10	13~ 14	車両用部品工場アルミ型材加工職場（2B工場）でアルミ長尺型材の運搬作業中に、梱包状態で地面に3段積み重ねしていたアルミ長尺形の機材が4本目に型材を上に乗せた際にバランスを崩し右足の「スネ」を打撲した。	62	5	521	500 ~ 999
4	2017	8	11~ 12	車両検査棟で保守用車の作業進捗を確認後、作業台から降りようとして梯子の方向へ歩行中、足元にあったアイボルトを避けようとしてバランスを崩し、梯子に転落した。転落した際、咄嗟に右手で頭上の点検蓋の取っ手に掴まり、左手を前方の蓋枠に置いて体を支えていたため、点検蓋が体重により閉まり、蓋枠に置いた左手中指が挟まれ受傷した。	33	1	417	300 ~ 499
5	2017	8	15~ 16	ベンダーで部品を作成するため鉄板を曲げているとき、鉄板とパンチの間に右手親指を挟んで出血した。	41	7	154	30~ 49
6	2017	7	9~10	新幹線車両から取り外した空調フィルター検修場でフィルターの粉塵防止のため水洗いし、「3枚」を捨てるために、前日にプラスチックかごに積み重ね、上に「重し」の砂袋（13kg）を4個乗せて水切りしていた。負傷当日、「3枚」を捨てるた	69	19	611	100 ~ 299

				め、「重し」の砂袋を両手に1個ずつぶら下げて3m移動後、砂袋を床面に置こうとした時に右肩を痛めた。				
7	2017	7	14~15	橋梁補修に使用するブラケットに、仮付けで取り付けであったプレート（重量約140kg板厚55mm、550mm×550mm）を取り外す作業中、プレートをマグネットで吊り上げる際、仮付溶接を完全に除去しない状態（確認が不十分であった）で吊り上げてしまったため、マグネットが外れフランジに添えていた左手指に落下し、受傷した。	21	4	379	50~ 99
8	2017	6	10~11	ボルトを拾い集めている時、ホルダーが落ちてきて、右手中指・薬指を挟み負傷した。	54	4	611	50~ 99
9	2017	6	9~10	当社請負先企業、製造部の新交通システム車両台車組立職場において、車両台車用中心ピン（540mm×470mm×高さ315mm、重量60kg）をホイストクレーン（1t）を使用して（クレーンの操作は本人がしていた）圧入機まで運搬する作業中のことであった。中心ピンにつば付ブッシュ（φ217mm／φ170／φ150×195L、9kg）を圧入するため、ホイストクレーンで運搬し、圧入機にのせた時に、床に置いてあった架台の脚に右足を引っ掛けて転倒しそうになり、咄嗟に中心ピンの先端に左手を着き体を支えた。その時、右手に持っていたホイストクレーンペンダントの上昇ボタンを誤って押ししまい、吊っていた中心ピンが上昇し、圧入機上部の油圧シリンダーロッド部と中心ピンの間に左手を挟まれ、受傷した。再発防止策として、2S（整理・整頓）を徹底し、作業エリアの作業者の動線を確保する。	35	7	211	30~ 49
10	2017	5	10~11	事務所玄関の出入口を事務所から屋外に出るため、約10cmの段差のある階段を歩行中に前方の停車中のトラックが気になり、足元の確認をしないまま、段差の角に右足を乗せて関節を捻る。	64	2	413	100 ~ 299

11	2017	4	9~ 10	クレーンで品物を下す時に、下の品物との間に右手中指が挟まり負傷した。	70	7	211	50~ 99
12	2017	3	16~17	集電環清掃作業中に体のバランスを崩し、左手で支えようとした際に歯車箱のオイルフラッシング装置駆動ローラー部と車軸の間に左手を巻き込まれ受傷した。	54	7	121	500 ~ 999
13	2017	3	11~12	製作所内のD2ピット3番、4番線間、海側スロープ部において、昼休み前に一旦使用工具類を片づける為、スロープからピット内へ降りる際、降り口に敷設された外部給電ケーブルを避けようとしてスロープの右傾斜部へ右足を踏み入れたところ、右足首を捻り受傷した。	40	19	417	30~ 49
14	2017	2	20~21	業務終了後入浴中、浴室内を歩行する際に左足を床面タイル部で滑らせ、その時に右足つま先が排水溝蓋の隙間に挟まった。そのために右足首に全体重がかかった状態で内側方向に捻った。	57	19	419	100 ~ 299
15	2017	2	16~17	ペーパーサンダー作業中、立ち上がった際に接触し右膝を負傷した。	42	8	153	30~ 49
16	2016	12	14~ 15	板金曲げ加工時、製品を左手で持ち、機械に突き当てた後、フットペダルを踏み製品の上にあるパンチ金型を下降させる作業中、製品をずれた形で突き当ててしまい、そのまま誤ってフットペダルを踏み、左第四指頭がプレスブレーキに挟まれた。	20	7	154	30~ 49
17	2016	10	10~ 11	作業員2名で吊手棒増設工事にて使用する吊手棒を倉庫に引き取りに行った際、1名は引き取り連絡の為、資材センターに向かい、被災者はバッテリーカーを運転し倉庫へ向かい倉庫横に停止した。荷物を受け取りやすいよう後進して荷台側を倉庫入口に向けようと左手でハンドルを握り、右手で操作レバーを握った瞬間、左後輪が載っていた溝フタが外れ左後輪が側溝に落ち、バッテリーカーが左に大きく傾き、被災者は反動で左肩	42	1	229	30~ 49

				から地面に落下し殴打した。				
18	2016	9	14～ 15	検修庫において車両の側カウル取付作業中、山側から床下を通り海側に出て立ち上がろうとした時、仮掛けの海側カウルに頭を打ち、床に手を突いたところに側カウルが落下し受傷した。	29	4	529	300 ～ 499
19	2016	9	5～6	仕訳線での入操作業において、特級貨車1両を待って、貨物2番線から仕訳5番線に引き上げ留置する際、機関車前頭の山側に添乗し引き上げ途中、仕訳5番線と4番線の線間にある一旦停止標識に右肩を衝撃し転倒、右側臀部及び左肘を擦傷した。	56	3	232	30～ 49
20	2016	8	10～ 11	車両の車内特別清掃で床スミ取り作業を終えて一旦車外で休憩しようとしてプラグドア外に設置した2段昇降段上に入船型に置いた長靴に足を入れて履き替えようとした際、バランスを崩し転倒。左後頭部を強打、裂傷を負った。	63	1	371	50～ 99
21	2016	8	11～ 12	車両の側面に付いているシールを剥がすため、脚立に上って、左手を車両の屋根の樋に掛けて作業を行っていた。その最中、右手で剥がしていたシールが切れ、反動でバランスを崩し、脚立から落下し、両足を負傷した。	51	1	371	100 ～ 299
22	2016	8	9～ 10	事務所前の庭園で、高さ約5mの貝塚を剪定用脚立とチェーンソーを使用して補助員と2名で剪定作業を行っていた。被災者は剪定用脚立に登り、高さ約2.5mの位置で作業をしていた。周囲には盛土があり、不安定な状態であった。剪定中に切った枝が剪定用脚立に登っている被災者に倒れかかってきたため、枝をよけるために盛土の上にとっさに飛び降りた。その際に右足から着地転倒し、右足距骨と踵骨を骨折した。	49	1	371	50～ 99
23	2016	8	15～ 16	工具置場で工具棚から工具を移動する作業を行っていた。20kg程の重量物が棚の上段に置かれており、その重量物を棚から台車に乗せかえた時に思ったよりも重たかったため右手に負担がかかった。	23	19	364	30～ 49
				工場の汎用旋盤でボルトの切断加工終了後、ニュートラルに				

24	2016	8	13～ 14	し、惰性で回っている旋盤を止めようと軍手をしてウエスを持った手で触ってしまったため、左手を巻き込まれてしまった。	49	7	151	10～ 29
25	2016	8	8～9	鉄道車両用部品製造のアルミニウム鋼板をNCパンチ機で切り出し、バリ取り作業を行なってから別の作業台に積み重ねていた。通常使用している作業台が別工程で使用中的だったので、空いていた軽量物用作業台に積んでいた。1枚約11kgの部材を16枚重ねて裏側を向いた時に部材が手前に崩れてきて作業台ごと転倒し、被災者の右足首から下を挟んだ。	55	5	521	100 ～ 299
26	2016	6	15～ 16	作業場内でグラインダーでパネルを研磨している時、右手親指と人差し指の付け根を切って、負傷した。	33	8	153	10～ 29
27	2016	5	8～9	特急車両運転室検査中に消火器止めの不具合があり、修繕完了後車両乗務員室乗降口より手すりを持ち、後ろ向きに降りようと二段アルミ製昇降段に左足を掛けたところ、昇降段が車両側に傾き、バランスを崩し背面から通路に転落、ヘルメットがズレ、後頭部を排水路グレーチングで打ち裂傷した。	57	1	371	50～ 99
28	2016	5	10～ 11	車両部品の横ハリの溶接ひずみ修正作業中、油圧パンチ式ひずみ修正機で作業台に角材を枕にして横ハ리를横臥させ、ひずみ部分に油圧式パンチを押し当てた時、角材の枕木の上から横ハリが転がり落ち作業者の右足甲にあたった。	37	4	169	100 ～ 299
29	2016	4	18～ 19	車両台車枠の非破壊検査を受けるため、ポジショナーに載っている台車枠を反転させようとした。ポジショナーが約135度まで回転した時、ポジショナーから台車枠が外れて落下した。落下した台車枠が被災者の胸部を強打した。	55	4	169	1000 ～ 9999
30	2016	3	15～ 16	台車検修作業場で台車の解体作業をしているとき、縦テコをつなぐピンを抜こうとして、ハンマーの先がピン穴に挟まり、ハンマーを抜くために縦テコの上部を右手で下部を左手で持って	58	7	364	100 ～

				揺らしたところ、ハンマーが抜けた拍子に縦テコが落下し右手薬指を挟んだ。				299
31	2016	1	16～ 17	工場において、車両台車の側梁反転作業を行っていた。側梁を自力で手前に倒した際、勢いよく倒れ、作業台上のストッパーを越えて落下した。その際、側梁と床面の間に右手が挟まれた。	21	4	361	1000 ～ 9999
32	2016	1	12～ 13	海外出張中の宿泊先ホテル前の路上を歩行中に、つまずき転倒した。その際、右足を歩道に強く打ちつけたため、骨折した。	44	2	419	500 ～ 999
33	2015	11	17～ 18	消灯後に室内を退出するため移動した時、機械部品を載せたパレットにつまずき転倒した。	61	2	379	10～ 29
34	2015	9	14～ 15	小歯車押え蓋をローラーコンベアに運搬中に本来は、搬送スイッチ（搬出コンベア入）を押すところ、小歯車押え蓋に左手人差し指を添えた状態で、誤って上昇スイッチ（リフター上昇）を押してしまった。その際、搬送装置と小歯車押え蓋の間で添えていた左手人差し指を狭窄した。	55	7	169	500 ～ 999
35	2015	6	10～ 11	鉄道車両の組立中、足場（1.5m）の上で、連結部のほろの受けに、ドリルでビス穴をあける作業をしていたところ、誤って床（コンクリート）に落下した。	70	1	411	30～ 49
36	2015	4	9～ 10	工場内で、トラックに荷物を積む作業を手伝っていた所別人の運転するフォークリフトがターンする時に、フォークリフトの後部に押されて負傷する。	63	6	222	10～ 29
37	2014	12	14～ 15	荷重試験場にて治具の鉄製金棒4個を仮置き場までクレーン運搬していた。最後の金棒を運搬し、金棒を積み重ね、下段の金棒とボルトで固定、吊り用のアイボルトを取り外した。つぎの運搬のためクレーンのフックを巻き上げ、クレーンを西側へ移動させた際、クレーンフックが金棒上部に引っ掛かり、倒れてきて右大腿骨を骨折した。	51	6	211	1～9

38	2014	12	7~8	会社に出勤後、事務所に入ろうとした際、事務所入り口手前の段差（約15mm）につまずいて前のめりになり、入り口のドア端部に頭を衝撃した。	53	2	417	500 ~ 999
39	2014	10	9~10	車両リニューアル改造工事において、ハンドの電動丸鋸（刃の直径105mm）を使い、床上に置いた木材（80×65×1800）を縦方向に溝を切っていたとき、丸鋸が左足の方に跳ね返され左足の甲（足背部）を切創した。	46	8	131	100 ~ 299
40	2014	7	13~14	工場内車体洗浄場にて作業中、移動足場の端から足を踏み外し、転落した。	20	1	411	100 ~ 299
41	2014	7	11~12	休憩後、1700mmの足場上がり、車両の塗装仕上げ作業を行おうとした時、一瞬立ちくらみのような状態になり、車両と足場の間から地面に転落して右肩を負傷した。	52	1	416	-
42	2014	6	16~17	通常通りの作業を朝から行い、通常の流れで部品運搬台車に部品を載せて移動、作業用テーブルリフターへ横付けし、立った姿勢で部品を手で持ち上げる作業で、左側の腰に痛みがあったので左側をかばい部品を持ち上げる際に、バランスを崩し持ち上げた時に大きな痛みを感じた。	59	19	921	500 ~ 999
43	2014	4	16~17	車両センターで、列車の研磨作業を終えて移動の際に、高さ1.8mの足場から転落し負傷した。	33	1	411	50~ 99
44	2014	3	14~15	車両所敷地内の動力室1階にて、作業場床面を水洗い作業中、本人はゴムスクレーパーを持って、液体タンク廻りを清掃していたが、薬液タンク下部の破損したモルタルふち石の上に左足を乗せた時、足を滑らせ斜め右後ろ側に転倒した。この時、横にあった点検架台のL型銅で右脇腹を打撲した。翌日受診したところ、肋骨骨折と診断された。	62	2	418	100 ~ 299
				排水処理装置附近の車体洗浄装置の点検作業の為、薬剂量、処				100

45	2014	3	8～9	理水量、計器当の機能確認中に転倒し（渡り階段で）、通路床面で後頭部を打ち負傷した。	65	2	417	～ 299
46	2014	3	8～9	車両所にて、排水処理装置附近の車体洗浄装置の点検作業のため、薬剤量、処理水量、計器等の機能確認中に転倒し、通路床面で後頭部を打ち負傷した。	65	2	417	30～ 49
47	2014	2	6～7	積雪量測定用秤を片づけようとして秤の上に設置していたパンタグラフを下ろそうと秤から持ち上げた時、足元が滑って右肩と右手を強打し、骨折した。	52	2	416	～ 499
48	2014	1	19～ 20	銅板治具の上に設置した切妻構体をスポット溶接するにあたり、溶接プログラムを確認するため作業者が門型自動スポット溶接装置をペンダントを持ちながら動かしていた。門型自動スポット溶接装置が指定された位置へ移動すると共に、作業者も移動した際、作業者はペンダントのケーブルが切妻構体に引っ掛かる恐れがあることに気をとられ、門型自動スポット溶接装置に追いつかれてしまい、スポット溶接の電極を切創するチップドレスと銅板治具の上に敷いてある銅板の角との間に右足付根が挟まれ、咄嗟に足を抜いたため銅板の角で受傷した。	38	7	332	1～9
49	2014	1	8～9	年頭式準備の為、踏み台に上がり旗の準備を行っていた。旗の調整が終わって踏み台から降りる際、バランスを崩して転落し、左足首を受傷した。	58	1	371	-
50	2013	9	22～ 23	エアー掃除機を持ち、振り返りながら足を移動させた際、ステップの段差130mmを踏み外し、体のバランスを崩し、1.130mm下のプラットホームへ前向きに転落した。	30	1	232	1000 ～ 9999
51	2013	8	18～ 19	製品をベンダーにて作業中、作業台車に躓き、転倒し、ベンダーに肩と手薬指を強打し、骨折した。	39	2	362	30～ 49
52	2013	7	13～ 14	パソコンを抱え車両検修庫内の通路を歩行中、線路を横断した際、レールの隙間に足がはまり込み、バランスを崩し、ピット（720mm）下に転落した。	58	2	223	100 ～ 299

53	2013	6	8～9	工場内にて、歩行中、立てかけてあったステンレス板に手を突き、切挫創を負った。	27	8	521	1～9
54	2012	10	10～11	車両を切り離し移動した際、前頭車が反時計回りに回転し、上腕部を密着連結器開放シリンダーに挟み受傷した。	27	7	232	30～49
55	2012	8	14～15	台車付きボール盤を移動させていたところ、台車のキャスターが床のくぼみに引っ掛かり、ボール盤が足の上に倒れ、骨折した。	51	6	152	50～99
56	2012	6	8～9	車体解装場にて、車両の床下に装着されている「機器」を他の作業者と共に、テーブルリフターに載せ取り外す作業をしていた。この時負傷者は「機器」を吊り下げているボルトを外す担当であったが、「機器」と「取付枠」の間に手を置いていたため、リフターの操作者がリフターのテーブルを上昇させた際、手親指の爪部がはさまれ負傷した。	59	7	219	100～299
57	2012	3	6～7	出勤時、構内の駐車場へ停車後、工場内へ向かう途中、指定された歩行帯を使用せず、圧雪された路面に足を取られ転倒し、脇腹を強打した。	64	2	719	30～49
58	2012	2	18～19	車輛工場で電車の配管作業中、設備用エアーカップラ設置取口にホースを接続しようとして接続部に向かった際、床面にあった埋め込みアンカーボルトに気がつかず、躓いて転倒し、足首甲を骨折した。	19	2	417	1～9
59	2012	2	10～11	総合車両センター内資材倉庫入口付近で部品運搬用通箱（3段積み）を片付けようと最上部上の通箱を持ち上げた際、腰部に痛みが走り、歩行困難な状況になった。尚、最上部通箱の重量は、21.7kg。	49	19	921	300～499
60	2011	12	16～17	社内作業場にてA製品の工作機械カバーの素材を組立、溶接加工中立てて作業をしていた。その製品を立てて作業をしていた際倒れてきたので押えようとして押えきれず、右手薬指第一	33	7	521	30～49

				関節部分を挟み負傷した。				
61	2011	11	9～10	車体入れ準備作業を7名の社員で開始した。被災者はNO. 1 (A方) 台車を車体入れ所定位置に移動するため、台車の2位側(北B方)の車輪踏面を2名で押していた。床面からピットに入った所で、車輪とギャケースの間に左手の皮手袋が挟まれたため左手小指を受傷した。車輪とギャケースの狭い間に、左手の皮手袋が挟まれたことが原因。	53	7	223	100～299
62	2011	8	10～11	被災職員は、車両床下機器取付のため架台上の車両床下に入った。機器の取付が完了したため、床下より出ようとしたところ、床下に取り付いている鉄製の機器箱にヘルメット全面を強打してしまった。この直後機分が悪くなり、救急病院へ救急搬送された。床下機器をくぐり抜ける姿勢が高かったため発生したものであるが、車両構造の変更が不可能であるため、作業員の安全行動に対する意識と、機器箱の下をくぐらずに迂回して隙間を通ることを意識する必要がある。	34	3	232	100～299
63	2011	1	8～9	パイプを手前の方で持つ様に作業指示をしたが、真中付近で持ったため、軍手がクランプに引っ掛かり戻った際、クランプと本体の隙間に左手中指が挟まってしまった。	45	7	154	100～299
64	2010	11	9～10	駆動装置回転試験場において、電車車輪軸と駆動装置の回転試験を実施する為に車輪軸を所定の位置に設置した後、駆動装置を回転させるモーターの歯車と駆動装置の歯車をベルトで繋ぎ、保護カバーを取り外した状態で試験場外の駆動装置回転試験機制御盤に於いて、電源を投入しモーターを低速回転させ、ベルトの回転状況を確認したところ、モーターの位置ずれのため、ベルトが弛み、異常を感じ、通常停止ボタンによって停止処理を行った。ベルトの回転が停止していないにも関わらず、張り具合を確認しようと手袋をした左手でベルトを叩いたところ、ベルトと歯車に手袋が巻き込まれ左手薬指と小指が挟まれ	31	7	129	30～49

				受傷した。				
65	2010	10	13～ 14	A工場は夜無人になり以前から現金食料品タバコ等の盗難にありその都度A警察署のお世話になっていた。12年前から番犬を飼い無事に今日迄来ていた。(今回の犬は2匹目)10月5日(火)帰ろうとして工場の外に出た所、一ヶ所ドアが開いていて閉めようとしたら4mの網につながれた犬側だった為かまれ救急車で搬送された。	45	90	921	10～ 29
66	2010	10	17～ 18	工場内において、階段の清掃を2階から1階まで行ない、清掃用具を持って2階まで上がりきったところで、被災者が後方へバランスをくずし、2階部分から踊り場まで転がり落ちた。	37	1	413	30～ 49
67	2010	6	19～ 20	溶接工場内の金属部品の組み付け作業中に、金属部品を機械装置にセットしている途中で体の一部が機械装置のレバーに触れ、機械装置が作動し、金属部品と機械装置に右手中指を挟まれ、切傷した。溶接物を押さえる機械にはさまれた。エアーにより固定する	18	7	169	10～ 29
68	2010	5	13～ 14	プレスブレーキにて、車両天井板の耳曲げ作業を2人で作業中(本人は先手)、両サイドを曲げ終り、製品を取り出そうと手の中へ入れた時、誤って本人が足踏スイッチを踏んでしまったため、下金型が上昇し、製品を持出しにいった右手を上・下金型に挟まれ、右手第2指～第5指を圧迫骨折した。	43	7	154	30～ 49
69	2010	2	11～ 12	第6車両工場1スパン山側の鉄道車両側構体組立場で、部材(長さ18,000mm×幅290mm、厚さ1.5mmのステンレス板)を他の作業員3名とともに持ち上げようとした。被災者本人は、片ひざを付いた状態で部材を持ち、床面から500mm位上げて中腰の状態になった時、腰に痛みが走り、動けなくなった。(被災者派遣元:A株式会社)	52	19	521	1000 ～ 9999
70	2010	2	15～ 16	工場内でプレス作業を担当しておりプレス作業の終了してキゲン(型5K位)を手を持って片付ける際に右足首をひねる。	66	19	921	1～9

71	2009	12	13～ 14	車両工場の組立場で、足場（床面からの高さ2160mm）の上で溶接の手直し作業を行い左側に横移動した時、足場下の作業員が作業の都合であり足場を一時的に上げていた開口部（幅960mm、奥行970mm）から足を踏み外し転落した。左腰を強打し腰を骨折した。	34	1	414	1000 ～ 9999
72	2009	12	11～ 12	鉄道車両台車の横梁ブロック溶接用2軸ポジショナー治具の改造作業中に、治具横軸部分に製品を載せ、バランスを取る作業に着手したところ、2軸ポジショナー治具の横軸部分の横梁ブロック（鉄製、高さ0.6m、幅1.5m、長さ2.6m、重さ500kg）と治具を締付けている部分の溶接仮付け部が外れ落下し、被災者の頭部に当たって、頭部を骨折した。	38	4	419	1000 ～ 9999
73	2009	11	8～9	清掃時に、集じん機の集積用ピットのグレーチングをスライドさせ開放した状態で、集じん機に溜まった切粉を処理した。そのまま開放状態としていたため、左足がピットに落ち、左膝を強打し骨折した。	39	1	418	100 ～ 299
74	2009	9	14～ 15	台車作業場に於いて、高速切断機砥石を取替える為、右手で砥石の固定ボルトにラチェットレンチを掛け、左手で砥石を持って緩めようと引き上げた時、レバーのスイッチに左腕が当たり、切断機が起動し固定ボルトに掛けていたラチェットレンチが回転した為、ハンドルが右目に当たり受傷した。	48	6	153	100 ～ 299
75	2009	8	10～ 11	作業場において職場移動のため、フォークリフト爪の上に鉄製の網パレット（1500×1200×h900mm）を乗せ、パレットに排気ダクト（長さ3700mm、重さ約30kg）と作業員（2名）を乗せて、ダクトの撤去作業をしていた。作業中にバランス崩し約1.5mの高さよりパレットとダクト共2名の作業員が地上に落下し、1名が肘を骨折し、もう1名は軽傷（休業1日）を負った。	58	1	222	100 ～ 299
				新幹線台車の輪軸解体ラインにおいて、輪軸の軸箱を解体する				

76	2009	6	9～ 10	ため、他の作業者が1人でレール上の輪軸を押していた。作業 者が重そうにしており、輪軸が途中で止まったので、手伝うこ とにした。作業者の他方の車軸のIS支持板を移動方向に引 張った。中腰の姿勢で、後ろ向きに力を込めて引張ったため、 腰に負担がかかり骨折した。	43	19	612	300 ～ 499
77	2009	6	10～ 11	工場で海外向け鉄道車両の立会い検査（寸法測定）資料作成 中、ゲージを取りに車両内の床板受け骨上を歩行中、バランス を崩し転倒し、左腕を床板受けに強打、負傷した。	37	2	417	300 ～ 499
78	2009	6	10～ 11	空気バネ用外筒（円形、約15kg）を検査のため、作業台に 移動しようとして持ち上げた際に、身体のバランスを崩し転倒し、 左手で身体を支えた時に床に手を突き負傷した。	54	2	417	10～ 29
79	2009	6	11～ 12	自転車で通行中、吸じん装置のスケットを入替作業中のフォーク リフトがギアをバックに入れたことを確認したため、バック を予想して、左足を地面に着けて停止したところ、フォークリ フトが後方確認しないままの勢いで後退してきたため、フォーク リフトのウエイト部に接触され、転倒して腰を打った。	54	2	222	300 ～ 499
80	2009	6	15～ 16	工場構内において、足場上（高さ2.63m）で先頭鉄道車両 の右側屋根の樋板の仮溶接後、反対側に移動しようとしてい た。その際、足場の渡し板を通過していた時、渡し板と車両前面 コーナー部の隙間から墜落し、胸を打って骨折した。	56	1	411	100 ～ 299
81	2009	4	10～ 11	モートルックに荷を積み、建屋から道路へ右折しながら出よう としたときに、道路の向かい側には別の建屋が有り、そのすぐ そばに建屋沿いに排水溝が通っていて、さらに排水溝の雨水受 入口が近くにあって、道路の面が複雑に傾斜しているのと、急 勾配もあり、ハンドルを取られ、建屋にモートルックが衝突し そうになり、慌ててハンドル切り、よけたがバランスが崩れ、 左足がモートルックよりはみ出し、建屋壁コンクリートとモー トトラックの間に挟まれ受傷した。	21	7	229	500 ～ 999

82	2009	4	15～ 16	軽貨物車で片側3車線道路の左車線を走行し、工具を運搬していた。その際、普通貨物トラックが、中央車線から急に割り込んで来たため、急ハンドルを左に切った。その際、左の歩道に乗り上げ、足と腰を打って負傷した。	28	17	221	1～9
83	2009	4	8～9	工場において、部品棚を移動させるため、部品を棚から降ろし、運搬車へ積んでいた。運搬車への積み方が悪く、運搬車を移動させようとした時、部品（連結器落下防止金具、125×65×6、重量6.5kg、37本）が崩れ、ハンドルと部品の上に左手指を挟まれ負傷した。	60	5	521	10～ 29
84	2009	3	11～ 12	当社倉庫内において、鉄道車両部品整理中、2階より脚立（約120cm）で降りるときにバランスを崩し、足を滑らせ脚立に顔面を強打し、転倒し負傷した。	28	1	371	50～ 99
85	2009	3	10～ 11	ローラにワイヤを巻き付ける作業中、ワイヤが左手指に引っ掛かり負傷した。	29	8	169	1～9
86	2009	2	16～ 17	溶接現場の定盤で溶接作業をしている時に製品を横向きに変え、定盤の上にある工具をとり、上体を起こし左側を向こうとした際、丁度目の高さに製品（アルミ製）があり左眼に当たってしまった。	58	3	521	50～ 99
87	2009	1	16～ 17	製造内装準備職場において、車両内装部材取付用調整材として、ハードボード（木質ボード）が必要となった。しかし、必要寸法の10mm巾がないためやむを得ず、直径20mm、長さ1000mmの素材を卓上丸鋸盤で、直径10mmに切断していた。半分ほど切断した段階で、先端に気を取られ、指が回転する鋸刃に触れ、慌てた瞬間に巻き込まれ指を損傷した。	18	8	131	50～ 99
88	2009	1	10～ 11	事業所内において、作業台の上から鉄板（100×200×12、3枚、約20kg）を移動させようとした時に、誤ってつまづいて転倒し、運んでいた鉄板と地面との間で右手指付近を	58	2	417	1～9

				はさんで負傷した。				
89	2008	12	10～ 11	車両の床下にて鋼製磁気シールド板（約375kg）の取付ボルト交換作業中、シールド板下からエアインパクトレンチを用いて全てのボルトを弛めてしまった為、シールド板が落下し、床面との間に挟まれた。	68	4	521	50～ 99
90	2008	12	13～ 14	大掃除のため2階の窓ガラスを清掃中、外側を掃除しようと窓枠を跨いだところ、右足が窓枠に引っ掛かり、バランスを崩した。落下を防ごうと踊場に右手を掛けたが手も滑り、右足から転落した。	50	1	418	100 ～ 299
91	2008	12	8～9	大型サンダーの刃を取り替える際、古いサンダーの刃を左手に持ち、右手でハンドルを回そうとして、力が入ってスイッチに触れてしまった為、電源が入り、左手指を負傷した。	32	8	153	1～9
92	2008	11	12～ 13	ポールにフランジを立てかけ人力で回転させようとした時、フランジが手前に倒れかけた。二人で止めようとしたが、両者の足の甲に直撃し、左足を骨折した。	59	4	521	1～9
93	2008	11	14～ 15	折りタタミ式健康器を立てて清掃中、健康器のロックが外れたため受け止めようとした際、台と健康器の間に左手指を挟んだ。	64	6	379	10～ 29
94	2008	10	10～ 11	塗装ブース外に置いてある部品（重さ50kg）10個を、2人でブース内に手で運び入れ、さらに塗装台（高さ1m）に乗せていたところ、腰が痛くなった。	23	19	611	300 ～ 499
95	2008	9	12～ 13	倉庫内で整理の為、丸鋸で廃材を切断中、廃材が跳ね上がり、左手指に当たった。	63	6	131	30～ 49
96	2008	8	14～ 15	除雪枠改造作業中、2台の除雪枠が1m間隔で置いてあり、1台目から2台目に移動する際、足を踏み外した。左胸を除雪枠足掛け部のフレームに強打し、骨折した。	56	1	521	300 ～ 499
				アルミ製資材が載った木製パレットが狭い間隔で保管してる場				

97	2008	2	10～ 11	所にて、部材内容を確認しようと左足から踏み入った際、パレットから1m程飛び出していたアルミ製資材に左足が引っ掛かり、資材とパレットの段差へ後方仰向け状態で倒れ込み腰を打撲した。	25	2	521	50～ 99
98	2008	1	14～ 15	鉄道車両用台枠マクラハリ加工場で穴加工後のマクラハリを天井クレーンで反転させるため仮台（部品コンテナ）上に置き、マクラハリの両端ツノ部にワイヤーロープのアイ部を下から廻して引っ掛け（2本）吊り上げた。垂直から反転時、仮台横に滑りマクラハリが手前に滑り落ちて、天井クレーン運転中の被災者の右足に当たり、骨折負傷した。	49	4	211	1000 ～ 9999
99	2008	1	13～ 14	車両センターで車両が入場し、所定位置に停車したのを確認後、後方に移動しようとした際、人がいた為、避けようとして、洗浄台と柱を塞いでいる塞ぎ板に足をかけた所、塞ぎ板がズレて足を踏み外し受傷した。	47	1	416	30～ 49
100	2007	11	9～ 10	車両用回転機の仮枠を他の職場から自職場に運搬するために専用の吊具で玉掛け作業をしてホイストで上に吊り上げた時に、芯（センター）が出ていないために仮枠が回転し、仮枠の一部が地面に接触した時に、ワイヤーが外れて落下した。安全靴の金具部分に落下したが、足を負傷した。	57	4	372	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各小業種における死傷災害100事例（-2017年）](#)に戻る。